

太平洋會議と  
支那の將來

太平洋會議は支那に對し建國的援助を與ふることとなるか、共同管理を開くの端を作るに至らざるか、二者其一を出でざるべからざる分岐點を劃するものが太平洋會議にして、頗る中外人士より重大視せらるゝに至れり、此時に當て支那政府は依然として何等の權威なく、奉直兩派の地盤爭執も亦依然として息まず、のみならず、兩湖問題を以て南北の確執を馴致せしめし傾向を生み、又も西南各省の活躍を見るに至れり、然れども達觀すれば、兩湖問題を以てせる昨今の形勢は、決して天下下一に歸する大戦争の前提となるべき大勝負を來すものにあらずとて、蠅の如く各省を糜亂せしむる可能性を有すれども、別に現在よりもヨリ以上の變化を招くものとは斷すべからざるに似たり、何ぞなれば兩湖問題が吳佩孚の一舉一動によりて、奉直兩派の決裂を見、之に乗じて西南各省の大聯合大活動を見ることは、到底期待すべからず、而かも事は奉直兩派に關係し、又は南北に關係するに

論なく、其なる所を窮むれば、亦軍閥勢力の消長に關係するに過ぎず。而して、斷じて國家統一に關係する能はざればなり、尤も統一派の政客は内政外交の大會議を召集し、北京政府より若干人の代表を送り、各省軍民長官より各一人を指派し、各省議團より各一人を選派し、其他重要公團より、各一人、廣東代表若干人をを加へ、適當の地點に大會議を開き、統一派の立場に資すべき者と看做せられ、折角太平洋會議と云ふ重大なる問題ある此際、十一月十一日に於て一日も國內の統一を速かにすべきを以て最緊要の舉なりと爲すと云へる眞摯の議論も、何等意義を呈せず、事實は却て國內の紛擾を滋くするのみ又は之を如何とすなし、歸する所、各方面は爭はんぞ欲するも爭ふ能はざらしめ遂に支那自らをして列國共同管理を太平洋會議に怙患せしめずんば思ふが如く、將た層々外勢に壓迫され、節々外勢に追迫られ、各方面をして共に私見を去るに一致對外を謀り、以て生存を圖る迄の痛切なる場合に遭遇するに至りて、始めて解悟する所あるか、問題の研究觀察は此に在りとせざるべからず

夫れ支那の政客は數千年來夷狄に苦しみ、其間に活路を求め來り、對手段を付度すること、に於て最も巧みなると同時に、對手段を播弄することに於ても、亦最も巧みなるが、殊に十年前より以後の支那は、其數千年相傳の國粹にして立國の大本たる名教綱常を亡くし、恰も六朝五代時代の邪說流行せし如く、外來危險思想に對する提防盡く決し、列國の人物は、識らず知らず帝の則に順ひ、其に供すべき最も便宜を與へたり、即ち支那は列國及支那青年政客相應は政爭に應せんとし、遂に其教を修めずして其俗を改め、其政を整へずして其宜を易し、雙方相俟つて無理なる注文を求めたり、之が爲め支那は紛擾を滋くせむる一方にて、今日の爲體を演ずるに至り、此に於て苟くも異に支那の統一を思はば支那を飽迄支那とし、之に向つて餘計の注文を爲さず、政爭の連續を睨めにし、斷じて干渉せざること最も得策なれども、奈何せん列國の支那に對する注文は甚だなり、列國の支那固有の名教綱常に對する諒解は皆無なり、之が爲め惡政客は跋扈し、之に對し軍閥起り、互に對抗し來れるが、英米は此不統一に籍口し、支那が、共同監政論の怙患を止まざりしなり、此怙患は遂に昂じて、今や太平洋會議に支那問題を上程するに至り、英米の支那に對する注文も此に至りて甚し野心満ちたる此に至りて又甚だし、英米は民國成立以來の登場人物が悉く屠らるゝ破産し去りつゝあるを知らざるか、袁世凱は第一に自ら斃れ、其後を繼ぎし段祺瑞亦昨午、敗地に塗みれたり、今日曹錕張作霖吳佩孚等時を得顔に跋扈しつゝあるが、彼等の運命も亦略ぼ察知し得るにあらずや、民黨系に至りては、劉湘、趙恆惕等あれども、彼等の地位亦何時失脚するやも定かならざるにあらずや、馬去り乙來り、丙去り丁來り政爭を繰返す一層に在りて、綱常名教なきに乘じつゝある現在の登場人物は、識らず知らず帝の則に順ひ、

つゝある三億九千九百萬人の大多數  
良民の消極的忍耐力が如何に發展するか、之によりて破産し去る場合あるを氣付かざるや、爾かく破産し盡きたる時が、即ち再び支那數千年相傳の道の光が發揮さるゝ時なるを知らざるや、太平洋會議なるものは、或は三億九千九百萬人の良民の消極的民心に活を與へ、登場人物を翻然悔悟せしむるか、否らざれば破産せしむるか、二者其一に出でしめざるべきか、清朝は本來虛政なものにはあらず、人心は未だ離れざりき、當時の當局者を得ざるが爲め民怨を滋くせし其人を得ざるが爲め政府にして皇帝を怨のみ、怨む者は政府にして皇帝を怨みしにはあらず、歐米君主と同日に語るべからず、又歷代帝皇と比擬すべからず、從つて太平洋會議は或は清朝復辟を決行せしむる階梯となるか、列國干政を着手せしむるかの大分岐點を劃するものと見ざるべからず、列國干政は亡國なり、亡國して共和民國を諄稱して何の價值がある、支那は本來統一の國柄にして、統一して始めて利あり、分れて害あるは三億九千九百萬良民の皆知る所なかり、分離不統一を利用して、喜ぶものは社會に容れられざる極少數の政客のみ、統一を促成せしむべきもののは其方法の何たとど武力たるご平和たるとを問はず、一に民彝に叫ぶべき綱常名教の恢復として復辟決行を決まば、必ず翕然として賛成すべきなり、太平洋會議は眞に復辟を決行すべき何よりの機會なり、時を得頼に跋扈せる登場人物は、先づ目を此に致すべし、是れ支那の亡國を逃るべき大根本なれば也（自註生）

|       |             |
|-------|-------------|
| ● 資本金 | 六〇,〇〇〇,〇〇〇圓 |
| ● 拂込濟 | 四五,〇〇〇,〇〇〇圓 |
| ● 積立金 | 一〇,三八〇,〇〇〇圓 |

本支店及出張所

臺北、臺中、臺南、基隆、嘉義、高雄、宜蘭、淡水、新竹、屏東、花蓮港、臺東、澎湖島、東京、橫濱、大阪、神戸、香港、廣東、汕頭、廈門、福州、九江、漢口、新嘉坡、スバヤ、スマラン、紐育、倫敦、孟買、桃園、パタビヤ其他各所ニ取引先アリ

上海黃浦灘路第拾六號



# 臺灣銀行

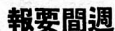
|          |       |       |        |
|----------|-------|-------|--------|
| 支配人 柳田直吉 | 支配人 席 | 輸出輸入係 | 電話     |
| 一、三三二    | 一、三三二 | 二、一六三 | 預金、送金係 |
| 吉        | 席     | 三、四八〇 | 丁客專用   |
|          |       | 三、四八一 | 買辦部    |
|          |       | 二、八四一 |        |



話電

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 出納 | 預金 | 輸送 | 支配 |
| 係  | 係  | 係  | 係  |
| 三  | 三  | 三  | 三  |
| 三  | 〇  | 七  | 〇  |
| 四  | 九  | 二  | 〇  |
| 三  | 二  | 四  | 四  |

資本金 壹億圓拂込済  
 積立金 五千三百萬圓  
 本店 横濱  
 支店 東京、神戸、大阪、名古屋、長崎、  
 下之關、倫敦、里昂、漢堡、シド  
 ニー、紐倫敦、里昂、ロサンゼ  
 ルス、シヤトル、布哇、孟買、  
 カルカッタ、蘭貢、新嘉坡、孟  
 買、バヤ、西貢、香港、  
 青島、濟南府、漢口、天津、  
 牛莊、大連、奉天、開原、長春、  
 哈爾賓、瀋陽、斯德、アイレ  
 ス、ラバヤ、ウエノ、スアイレ  
 ス、リオ、デジャネイロ  
 上海黃浦灘路三十一號



▲奉直兩派との關係  
▲王占元の地位問題

其策算に必ずや同省反王派と早く  
く更には其裡面に廣東孫文の魔手已に  
伸びつゝありて廣西を一蹴してより  
若し湖南にして湖北を討たずんば攻  
桂軍の餘力を以て直に湖南に進逼す  
べしとの意を通じたるに因るなるべ  
し右起兵の原因は左の如く三別する  
事を得べし

(一)廣東政府よりの一種の脅迫  
(二)部下軍官の催迫と湖北反王軍官  
の請求

(三)  
迄も無く唯之が爲め全省の禍亂を誘致するに到らざれば幸なり

云ふあり、前者は廣東軍戰勝の時機を利用してたるものと爲し、後者は蕭耀南に湖北軍務を與へる爲めなりと爲せり、要するに湖北侵入より云へば自動的に見ゆるもの、王占元排斥し云へば、被動的なる也、古占元の説には取るに足らざるに似たり、何となれば趙は湖南總司令となり居れども其地位は決して穩固ならず、加ふるに湖南は黨派の紛岐甚だしく、趙の

大局の問題として廣西失墜と共に所謂西南各自治者發展の初步を呈するに至り、長江黃河流域交通の中心たる湖北は萬目の集注する所となり頗る重大視せらるゝに至れり、夫れ今回の兩湖問題の原因は從來の湖北人の王占元驅逐行動に本づく、王占元在任中九個月の間に兵變數回あり、又省長問題を以て湖北人と衝突するこゝ幾回なるを知らず、王占元排斥は連續的なり、湖北人は彼等の王排斥を達するに就きては、地盤を欲して止まざる直派の野心を捉へて、之に助けを求めたり、湖北人たる人派の蕭耀南は實に彼等の希望する人物なり、是れ北方在留の湖北人の意見なり、在南方の湖北人も亦廣東政府によりて湖南政府をして王占元排斥を運動せしめたり、其之を爲すに就き湖南在留の多數の湖北籍軍官兵士は、彼等の尤も愛郷心を喚びて手を着けたる所なり、然れども在北方の湖北人の行動は平和的にして直派を恃み督軍を易ゆるを以て、満足す

湖南軍が湖北を攻むるに至りしに就ては、概略を述べたるが、其湖南軍が大に積極に出づるに至りし點に關し、北京通信は報じて曰く

最近より湖北王占元と王占之の交鋒淺からざりし湖南總司令趙恆惕が遽に兵を省境に進めて湖北討伐を聲明し已に其先鋒隊は鄂境を犯して漸次侵出し其勢力遙に湖北軍に優越せるものあるは輕視すべからざる重士事件にて影響する所頗る廣汎に亘ふ或は天下大に亂るゝの禍機茲に孕むに非ずやと信じらるゝ、又兩湖巡閱使たる王占元に従屬せる趙恆惕はより妙からざる恩惠を蒙り交情厚きものありしに拘らず突如其如ちて此広恩的態度に出でしは廣西に對する寧東軍の戰況全き其地を得て却て廣西攻略の積極的勝利を換へるに基因するものに從來南從北歸の曖昧可憐糊たる態度にあり久しく其適從するを觀望しつゝ、大勢力の歸定するを觀望しつゝ、裏切りに最近省民の王督軍に對する反

茲に最も注目すべしは吳佩孚の態度にして政府側にしては吳氏の態度にて就き全く危懼せざるもの、如く全然湖北救援に終始すべく信じつゝあるが如きも一部消息通間には吳氏と稍々恠愕間に一脈の相通するものありて王古元驛遷にあるものなりと傳へて本日我公使館に達したる漢口潮川總領事よりの電報に據るも吳軍の來鄂は湖北の擾亂をして更に擴大すべき形勢ありとし吳趙の關係に對し一種の裡書を爲したるを見るも其間

腹背戰を受けるの破目に陥りし點  
るは直派となり、王ご直派の惡感  
は昨年の省長問題より始まるが、湯  
銘等は保定に奔走し助を曹錕に請  
曹は湖北人を以て湖北を治むるこ  
を勸告するに至りたり、此に於て王  
占元は自ら不安を覺へ何んぞかし  
直派軍隊の湖北駐屯者を外に移す  
ことに努力することゝし、五月在  
中王は力めて陝西督軍の更迭に贊  
し、閻相文吳佩孚の軍を湖北より陝  
西に離さしむることに腐心したり  
幸にも突然武昌宜昌の兵變續ひて  
はたれば、湖北人は又も滿洲軍の  
占元の後に置かんことを謀りたり  
に於て王は益直派の我を謀るを憎  
警戒し始めしが、今回湖南の侵入  
受くるや、王は一層直派の行動を  
し始めたり、連日の北京電報及  
信は吳孚佩が湖北援助に努力す  
は、全く敵本主義に係る魂膽は湖  
北を侵入防禦を籍りて、湖北の地盤を  
はんとするに在りし傳へざるはな

之に代らんとする計畫あり、内應の患は絶へざるなり、趙が輕舉せしは事意外に出でたれども王排斥の勢の已むを得ざる爲め、自然吳佩孚と一致するに至りしものと見られざるの一致するに非ざればなり、従つて湖南軍の出兵は虚勢を張る爲めにして、要は蕭耀南を督軍させしむべく、王を去らしむるが目的ならん、王一度去らば趙の任務は終り、必ず長沙の大本營に歸るべしと

(四)

然らば王の自衛力是如何、王は此次の兵變を受けし以後、殘餘の兵は一師四混成にして、第二師は目下豫募中に在り、實際の兵數は甚だ少むと孫傳芳の砲兵騎兵隊不完全にして軍心大に動搖し居れりとも傳へらる然るに一時驚しかりし湖南軍と湖北軍は衝突し、非常の勢を呈するに至りしと傳へたれども、昨今は又も緩和されし傾向あるに拘らず、湖北軍の奮勇は寧ろ甚だし、河南の

日清汽船株式會社

|            |       |            |       |            |       |            |         |
|------------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|---------|
| 上海出帆       | 鳳陽丸   | 南陽丸        | 瑞陽丸   | 大福丸        | 大貞丸   | 大利丸        | 浦東棧橋ヨリ發 |
| 郵船棧橋ヨリ發    |       |            |       |            |       |            |         |
| 電話         | 輸出泊直  | 電話         | 輸出泊直  | 電話         | 輸出泊直  | 電話         | 輸出泊直    |
| 船客         | 三四五六  | 船客         | 三四五六  | 船客         | 三四五六  | 船客         | 三四五六    |
| 上海支店       |       | 上海支店       |       | 上海支店       |       | 上海支店       |         |
| 上海廣東路中號及大號 |       | 上海廣東路中號及大號 |       | 上海廣東路中號及大號 |       | 上海廣東路中號及大號 |         |
| 電話         | 浦東棧橋  | 電話         | 浦東棧橋  | 電話         | 浦東棧橋  | 電話         | 浦東棧橋    |
| 監督         | 一八七四  | 監督         | 一八七四  | 監督         | 一八七四  | 監督         | 一八七四    |
| 漢口宜昌線      | 一ヶ月六回 | 漢口宜昌線      | 一ヶ月六回 | 漢口宜昌線      | 一ヶ月六回 | 漢口宜昌線      | 一ヶ月六回   |
| 漢口湘潭線      | 一週二回  | 漢口湘潭線      | 一週二回  | 漢口湘潭線      | 一週二回  | 漢口湘潭線      | 一週二回    |
| 漢口常德線      | 一週二回  | 漢口常德線      | 一週二回  | 漢口常德線      | 一週二回  | 漢口常德線      | 一週二回    |
| 九江南昌線      | 一週三回  | 九江南昌線      | 一週三回  | 九江南昌線      | 一週三回  | 九江南昌線      | 一週三回    |

三井物産株式会社  
Mitsubishi Bussan Kaisha, Ltd.



同會議が全く英米兩國の軍備問題に發したるを明瞭とすべきに依り漸次與論も緩和され一面日本政府の撤兵斷行も近きを以て一般輿論の好調を帶ぶるに至るべしと信じてゐるものゝ如し以上の如く兩國政府の眞意は同會議の開催如何と支那側の與論如何に拘らず既定方針を採つて解決せしめんとするにあり唯講和會議當時に於ける王正廷氏の如き當初政府の容認せる人物に非ずして我委員の意表に出づる活動を取立てせるの前列に對しては我政府は飽く迄慎重の態度を持し再び斯かる失敗を繰返さざるに努むるの要ありと

### ●靳內閣運命問題

廣西を援助すべからずして遂に廣東の勢力を増進せしめ、援いて兩湖問題を惹起せしめ、更に加ふるに太平洋會議は對外重大を一層甚だしく見給らるゝに至り、太平洋會議に對し靳は自ら出頭して同會議に出席すべしと云ふ説と内閣を倒すものあるべしと云ふ説と二あり、初め靳は徐世昌が段派を制する一種の手段として緩衝的作用を以て入閣せり、徐段間の緩衝は即ち直安兩派間の緩衝なるが、直安一戰して直勝る安敗ぶるや、靳は奉直間の緩衝者となり、以て其地位を維持して今日に至りしが、緩衝は即ち靳を左右すべき二大派勢力あることを意味するに外ならず、乃ち緩衝的作用は一時的荷且其安を求むるものに於て根本的解決とは云ふべからず、從つて其効力の大ならざるは云ふ迄もなく暫時なることも又説く迄もなし、

然るに内憂外患は一時に來りて問題をは自然倒閣説を喚び起して推倒策を講ずる所ありて又頻繁なり、内には吳佩孚を以て湖北援助の極、吳をして湖北に居らしむれば、奉派の不快を來すを恐れ、又吳が西南の握手せば北方全體に不利なることを知るが故に吳をして湖北督軍たらせんとすべしと云ふ考へも、王占元を排せんとする考へも、熱慮せざるべからず、然らばと云つて吳を湖北に据へざれば直派より憎める恐れあると共に、西南と聯絡を見るに至らんかを恐る、此の如き難題に逢着せるに當りて、外は太平洋會議なるものは支那を料理せんとする運命を促がしたるものなればざる運命を排して國內の統一を急がざるべからず、されども此事は到底不可能なり、此外張勳の起用に就き張作霖の終始要求して止まざるあり、舊交通系の乘取策あり、靳內閣の緩衝作用は何時迄持續せらるゝか、頗る危まる、舊交通系は周自齊、葉恭綽を三巡閱使會議を籍りて逐ひ出せしこと出で、靳內閣の運命問題は又問題となれり、此運命に就ては内閣は自然に倒るべしと云ふ説と内閣を倒すものあるべしと云ふ説と二あり、初め靳は徐世昌が段派を制する一種の手段として緩衝的作用を以て入閣せり、徐段間の緩衝は即ち直安兩派間の緩衝なるが、直安一戰して直勝る安敗ぶるや、靳は奉直間の緩衝者となり、以て其地位を維持して今日に至りしが、緩衝は即ち靳を左右すべき二大派勢力あることを意味するに外ならず、乃ち緩衝的作用は一時的荷且其安を求むるものに於て根本的解決とは云ふべからず、從つて其効力の大ならざるは云ふ迄もなく暫時なることも又説く迄もなし、

再び靳內閣の運命は一時に來りて問題をは自然倒閣説を喚び起して推倒策を講ずる所ありて又頻繁なり、内には吳佩孚を以て湖北援助の極、吳をして湖北に居らしむれば、奉派の不快を來すを恐れ、又吳が西南の握手せば北方全體に不利なることを知るが故に吳をして湖北督軍たらせんとすべしと云ふ考へも、王占元を排せんとする考へも、熱慮せざるべからず、然らばと云つて吳を湖北に据へざれば直派より憎める恐れあると共に、西南と聯絡を見るに至らんかを恐る、此の如き難題に逢着せるに當りて、外は太平洋會議なるものは支那を料理せんとする運命を促がしたるものなればざる運命を排して國內の統一を急がざるべからず、されども此事は到底不可能なり、此外張勳の起用に就き張作霖の終始要求して止まざるあり、舊交通系の乘取策あり、靳內閣の緩衝作用は何時迄持續せらるゝか、頗る危まる、舊交通系は周自齊、葉恭綽を三巡閱使會議を籍りて逐ひ出せしこと出で、靳內閣の運命問題は又問題となれり、此運命に就ては内閣は自然に倒るべしと云ふ説と内閣を倒すものあるべしと云ふ説と二あり、初め靳は徐世昌が段派を制する一種の手段として緩衝的作用を以て入閣せり、徐段間の緩衝は即ち直安兩派間の緩衝なるが、直安一戰して直勝る安敗ぶるや、靳は奉直間の緩衝者となり、以て其地位を維持して今日に至りしが、緩衝は即ち靳を左右すべき二大派勢力あることを意味するに外ならず、乃ち緩衝的作用は一時的荷且其安を求むるものに於て根本的解決とは云ふべからず、從つて其効力の大ならざるは云ふ迄もなく暫時なることも又説く迄もなし、

### ●對外問題と廣東政府

▲代表權あり

▲廣東政府に

廣東政府外交次長伍朝樞は日英英新聞問題及太平洋會議に關し、東方通信記者に對し左の如く答へたりと云ふ即ち曰く

日英兩國間に於ける國際的協約に對し第三者たる支那が同意或は反對を表示するの理由無し但し該協約中支那に言及する條文即ち例へば支那の領土及獨立保全云々の如き字句ありとせば國際上獨立國の一員たる支那として明かに國家の威嚴を損傷するに譯して自ら容喙せざる能はず更に理論上之を論ぜざるも政府は重要會議に當りては代表派遣國政府は唯其の國民を代表すべき資格の有無に依り決せらるべきのみは實行を重ねし形式を輕んずるなり尙は支

上海廣東路九號

資本金五千萬元

拂込済參千萬圓

株式會社 三菱銀行

支店 東京 九之内 大阪 中ノ島船場 京都 名古屋 倫敦 紐育

支店 東京 九之内 大阪 中ノ島船場 京都 名古屋 倫敦 紐育

江商株式會社 上海支店

號五十五路川四北海上

〇一二二九 〇一二二九 〇一二二九







支那家族の問題  
(三)

南京高師にて朱進之

守節問題。守節も支那家族問題中の一大問題であつて其裡には理由なき點が頗る多い、支那の家族制度を改めんとせば此問題に對しても亦一解決を下さねばならぬ

一、守節の政治。守節の由來に二つある。一は政治方面に由るもので、昔、始皇の始皇が女懷清臺を築いて其節婦を褒した、これは吾國婦女守節出名の第一聲である、其後陳仲の閉門に至り九品以上の官員に於ては夫死するも其妻改嫁を許さず、五品以上に於ては其妻も改嫁を許さざるの詔令であつた、これは吾國守節勵行の初令である、これ以後守節婦は遂に社會習慣上最も名譽なる事となつて了つた、専制皇帝が之を提倡獎勵せる原由、

由を推考するに、其處に彼等の意圖が含まれてゐる、即ち彼等は妻が爲の爲に節を守るべきを獎勵するに藉りて臣が君の爲に節を守るべきを暗に獎勵したものである、二は宗教方面に由るもので儒教は素と従一而終を主とし、宋儒に至りて殊に之を主張し程伊川の如きは

婦人寧可餓死、不可失節  
と言つた位であつた

二守節の害。第一は大家族を構成する  
の第一原因である、夫死して節を守  
らんには寡婦たる者夫家の舅叔に頼  
つて居を共にせざるを得ない、於是  
家庭に消費の余一人一人が増へ、故  
に家族の幸を減らす事となる。

る、子女を有する年若き寡婦にして

其子女幼弱なる爲めに之を捨て去るに忍びずして守節せんとする者も亦美德でこれも本人の意に任すべきで

が誤てる習俗に囚はれて従一而終の四字を美德となし、之に因り苦痛を忍びて守節し、人生の樂を犠牲にするが如きは全く意義なきことだ、若し夫れ許婚中に其夫死し、禮教腐儒

の言ひは、是れ無道理の甚しきものである。第三に支那の古來有名な人々の中に此様な無理な習俗を破つた人があつて、例へば子思の母が伯魚の死後衛庶氏に嫁じ、韓宣の娘が初めは李漢に嫁じ其死後更に樊宗彝に嫁じ、宋の范仲淹の子の沆麗の妻が其後朱陶に嫁じ、明の薛居正的妻が其後朱陶に嫁じ、王恕が自ら陳柴氏が張鑑妻に嫁じ、王恕が自ら陳郎中の妻を娶つた例がある、此等の人々は皆古の名達で其妻々の再婚を

義道だ、程伊川が盛んに守節を提倡するに拘らる。其兄明盛の嫁は王某に改嫁し、又伊川の友邵堯夫の母は初

め江藤義に嫁したが後又邵氏に改嫁した、守節は全く世俗の陋見に過ぎぬ、愚夫愚婦共々動もすれば之を非常なる榮譽と心得るも、賢人より之を観れば何でもない、范仲淹の如きは常に守節を提倡せざるのみならずすは常に改嫁を倡へた、彼は義莊を立て

けた、宋の宗室傳に斯う云ふ一文がある、曰く

汝南王允讓、最賢、爲大宗宗、奉宗婦年少喪夫、雖無子、不許嫁、非人情、請除其例

古の人の此問題に對し反對せる者の數からざるを知るべしである、

何ぞ況や今日に於ておやである、人の犠牲には必らず何等かの目的がある、許婚中に夫の死せる寡婦、年若

貞操を守り、夫死して後亦守節し、  
夫は即ち多くの妻妾を娶り、妓娼の  
巷に流連遊蕩し、而も時に其妻を虐  
待し、而も社會輿論の之を指謫非議  
せるを聞かざるのみか、反て公然と

を以男子當然の權利なるかの如  
に認むるに至つては世間の暗黒不  
も亦餘りに甚しい、人類の平等か  
謂つて此守節問題の如きは最早や  
在の餘地がない

(五)

居喪問題。居喪問題も支那家族  
一種特別な制度で頗る論議の價值  
ある問題である、茲に喪期及喪禮  
の分けて論ずる

一喪期。支那に行はれてゐる三年  
喪なるものは其由來既に久しく、

子之を信へ宋儒に至つて之を守るに殊に深かつ、此様な長い喪期理由は是非は切實なる研究を要する孔子が三年の喪を主張せる所以は子生三年、然後脱於父母之懷に在つて父母の死後其子は三年の喪に服すべしと云ふに在る、報恩的に思ふ、年併父母の恩は儒家の所謂

天國極で限りなきものだ、其恩に  
ひんぞせは終身を以てするも盡す  
が出來ぬ、僅に三年を以て期する  
が如きものでない、而して孝なる  
のは父母在世の時に切實にして有  
であらねばならぬ、父母死して後  
に服すること三年なる事に抑も如

は人情の自然上長きを得ない、心  
三年たらんと欲するも亦誰れか之  
能くし得る者ぞ、既に爲す能はざ  
る爲すは虚偽だ、有名無實の行動  
ある、今日の人は國家社會に對し  
各其義務責任をば、而して國民  
其國家の爲に盡すべき時は多く

中年時代に在る、此中年時代に當  
假に有爲にして國家の爲に盡し得  
き一人材が忽然として其父死せる

例喪中の人の投考を許さなかつたため此秀才は遂に其機會を失つて了た實例がある、喪期の爲めに子の生を誤つが如きは死せる父母の本意ではない筈だ、杜如晦房玄齡等は

二喪禮。喪禮に大聲哭泣三年不出  
の禮がある、眞に虚偽だ、孝の重  
は父母在世の時に在る、在世の時  
に父母して其死のや大聲あけて  
母中へつて其孝を賞める、滑稽  
き、人は反て其孝を賞める、滑稽  
はないか、墓祭にも日祭祭がある  
明祭等一年中數十日の日祭がある  
此數十日間其墓を廢し酒肉香燭を  
に供へて之を焼くが如きは物の消

に於て餘りに意義なきことだ、葬中墓地問題の如きは殊に注意を要する、風水の弊は支那愚人の迷信による、父母の葬其地を得れば子福利を得べしと、父母の死後風良好の地を擇びて財帛色々の物とに埋葬する、そして忽ち發掘され

招く、そして風水迷信の結果惡田  
土と雖面積大なる墓地を購て埋葬  
なく擴がり、將來田地は無論居住  
其餘地なきに至るであらう、廣  
香山縣の如きは其要地多く墳墓の

て國家の發展優勢は國民的活動能力に在る。南洋に移民をシ、而も斯く増加して墳墓は風景をドシ、破壊し增加するものがある。之を要するに國際競争劇烈なるものを。

て動能力は其個人の發展に俟ち、個々の發展は舊式家族制を改造するよ爲急切なるはない

爲替取組先

漢口、九江、福州、青島、天津、北京、大連、香港、新嘉坡、孟買、倫敦、紐育、其他支那各地

中華匯業銀行

電話（支配人席中）一九四六番號（一般營業部中）一九四一

て共水孫きす禮

木 鈴

九

店本

爲東すりす壤を

會名合

上店商

路江

二三三  
二三三  
二三三  
二三三  
二三三

中中中  
中中中  
中中中  
中中中  
中中中

話電

岸海市戸神

活力今      でゆ行で  
 社  
 店支海  
 號      三  
          番九  
          番九  
          番九  
          番五  
 地番十通

り人

ー。ポスター、株  
 ル、帯紙、商品券  
 用書類、レターペー  
 函、各種サツク、シ  
 (四版) (銅版影  
 Press,  
**刷 印**  
 路 而・克・司・敏  
 三 北 話 電

機械、材料、文房具販賣

(オフセット).....カレン  
(石版).....レツガ  
(活版).....讀書社  
(紙器).....煙草  
(ジंक版) (凸版)

Shanghai  
株式會社

三十三號  
一九五〇

營業種  
堀井謄寫版、文具、印刷  
印刷インキ、自轉車、護謄及  
製品、車輛、金庫、紙、藥品

日  
殺雞、肥料、鑽石

TH

堀井膽寫堂

上海河南路七七、七九  
電話（中央）參參貳（央）

支店 漢口 天津 京城

其他 金五圓

1



●熱河都統

▲姜氏動向

汲金純の第二十八師が熱河特別區域進出は名は征蒙に藉るも實は汲金純氏の熱河都統を實現せんことを強

るが如き事ありては遺憾なれば之を集合して其通路を開かざるべからざるが爲めに三ヶ月の期間を要する

熱河侵入を防止しつゝあり中央は此の電報は明かに兩方面の衝突を豫想

さるゝものとし非常に憂慮し徐總統は一面汲氏に對し一面張氏に對し某

停せんと努力しつゝありその使者は既に十六名來奉したるなり此れに關

識者間には熱河が再び陝西陳督軍に轍を踏一動搖を惹起すべき事を想

●張作霖出發中止

▲西南の變局に就き

蒙古親征の爲め二十六日出發北京の府であつた張使は二十五日北京北

其阻止電が無いとて目下の形勢に於ては張使に至りて到底省城を離るること能はざるべく殊に王占元の位置に萬一の動搖を來すことあれば將

に四百餘州に亘る大變動を來すは火を睹るより明なるに於てをや加ふるに時恰も知多政府の外務大臣ユー

全國各界聯合會は吳佩孚に對し左の如き電報を發せり

▲吳佩孚に打電

▲命令

▲命令

▲命令

▲命令

▲太平洋會議に關し

▲命令

▲命令

▲命令

▲命令

▲命令

▲命令

三百萬と計上し、海陸軍定員の規定等につき準備すべく申合せたり

▲命令

▲命令

▲命令

▲命令

▲命令

▲命令

營業種目

株式 伊藤商行

資本金 貳千萬圓

營業科目

東亞興業株式會社

上海出張所

出張所

諸藥品、織機

株式 東亞公司

資本金 五千萬圓

營業科目

日本棉花株式會社

上海支店

出張所





# 日華紡織株式會社

事務所—上海四川路五五號

電話 中二五九九  
中二四九九

工場——浦東

電話 中一九八五  
中一五七五

勞務生路建築工場

電話 四一九六七



申  
會社 合資  
上海江西路五號  
申亨洋行  
電話 四三〇〇九

海運業  
營業科目  
船泊代理  
并賣買仲立  
一般輸出入

# 東華紡績株式會社

事務所 上海漢口路A九號

工場 上海華德路八號

電話 東三五四番

## 線通交捷最絡聯亞歐

### ●急行列車ハ最新式ノ一、二等寢臺車及食堂車ヲ聯結致居候

#### ○大連長春間急行

下リ  
日本曜日  
上リ  
長春發 月、木、金曜日  
大連發 月、木、金曜日  
長春發 月、木、金曜日  
大連發 月、木、金曜日  
長春發 月、木、金曜日  
大連發 月、木、金曜日

| 行先 | 時刻      |
|----|---------|
| 大連 | 午後三時二十分 |
| 長春 | 午後三時三十分 |
| 大連 | 午後三時四十分 |
| 長春 | 午後三時五十分 |
| 大連 | 午後四時    |
| 長春 | 午後四時十分  |
| 大連 | 午後四時二十分 |
| 長春 | 午後四時三十分 |
| 大連 | 午後四時四十分 |
| 長春 | 午後四時五十分 |
| 大連 | 午後五時    |
| 長春 | 午後五時十分  |
| 大連 | 午後五時二十分 |
| 長春 | 午後五時三十分 |
| 大連 | 午後五時四十分 |
| 長春 | 午後五時五十分 |
| 大連 | 午後六時    |
| 長春 | 午後六時十分  |

### ●長春大連間急行列車

長春發 月、木、金曜日  
大連發 月、木、金曜日  
長春發 月、木、金曜日  
大連發 月、木、金曜日  
長春發 月、木、金曜日  
大連發 月、木、金曜日

| 行先 | 時刻       |
|----|----------|
| 大連 | 午後五時四十五分 |
| 長春 | 午後五時五十分  |
| 大連 | 午後六時     |
| 長春 | 午後六時十分   |
| 大連 | 午後六時二十分  |
| 長春 | 午後六時三十分  |
| 大連 | 午後六時四十分  |
| 長春 | 午後六時五十分  |
| 大連 | 午後七時     |
| 長春 | 午後七時十分   |

### ●大連發 急行列車ハ上海着ノ各航路汽船ニ接續致候

大連發 急行列車ハ上海着ノ各航路汽船ニ接續致候

| 行先 | 時刻      |
|----|---------|
| 上海 | 午後三時二十分 |
| 大連 | 午後三時三十分 |
| 上海 | 午後三時四十分 |
| 大連 | 午後三時五十分 |
| 上海 | 午後四時    |
| 大連 | 午後四時十分  |
| 上海 | 午後四時二十分 |
| 大連 | 午後四時三十分 |
| 上海 | 午後四時四十分 |
| 大連 | 午後四時五十分 |
| 上海 | 午後五時    |
| 大連 | 午後五時十分  |
| 上海 | 午後五時二十分 |
| 大連 | 午後五時三十分 |
| 上海 | 午後五時四十分 |
| 大連 | 午後五時五十分 |
| 上海 | 午後六時    |
| 大連 | 午後六時十分  |

### ●大連上海航路

大連發 急行列車ハ上海着ノ各航路汽船ニ接續致候

| 行先 | 時刻      |
|----|---------|
| 上海 | 午後三時二十分 |
| 大連 | 午後三時三十分 |
| 上海 | 午後三時四十分 |
| 大連 | 午後三時五十分 |
| 上海 | 午後四時    |
| 大連 | 午後四時十分  |
| 上海 | 午後四時二十分 |
| 大連 | 午後四時三十分 |
| 上海 | 午後四時四十分 |
| 大連 | 午後四時五十分 |
| 上海 | 午後五時    |
| 大連 | 午後五時十分  |
| 上海 | 午後五時二十分 |
| 大連 | 午後五時三十分 |
| 上海 | 午後五時四十分 |
| 大連 | 午後五時五十分 |
| 上海 | 午後六時    |
| 大連 | 午後六時十分  |

社 會 式 株 道 鐵 洲 滿 南  
町 樂 有 區 町 麴 市 京 東 社 支 ○ 町 園 公 市 連 大 社 本 ○  
(MANTETSU) 號 署 報 電 (番 九 一 二) 連 大 金 貯 替 振

### 消化と

## 仁丹

活動に仁丹  
食後に仁丹  
煙草に仁丹

最も大なる活動の  
後にも最も大なる快  
楽あり 西番

仁丹

### フリヤント電球

電球工業設計事務所  
博利安電料公司  
電話 中央 四〇七

電球工業設計事務所  
博利安電料公司  
電話 中央 四〇七

### 辛酉公司

營業 浙江產鑒石採掘買賣  
科目 一般輸入  
上海四川路A百二十八號  
電話 中三三三二  
電話 西一八二七

### 和洋家具類

●室內裝飾品類  
●書畫骨董類  
●諸物貨賣買仲次  
●電機器具及工事  
●右十數年の經驗自信に依り大力の貴客に應ず  
上海開行路廿一及廿二號  
上海便利社

### 北福洋行

號六十三路東廣海上  
電話 二九八三話電

### 營業科目

化學用玻璃器、醫藥用瓶其他、玻璃料器一切製造販賣其他一般輸出入業

### 發行所 春申社

上海崑山路A八號  
電話 北二五七  
電話 北二五七

### 廣告料

本紙掲載廣告の料金は右の多少掲載期間の最短に依り特に御相談可致候御用の方は請又ハ(電話北二八五七)にて御一報被下度候

| 部 | 料    |
|---|------|
| 一 | 金十五錢 |
| 二 | 金十錢  |
| 三 | 金五錢  |
| 四 | 金三錢  |
| 五 | 金二錢  |
| 六 | 金一錢  |
| 七 | 金五錢  |
| 八 | 金三錢  |
| 九 | 金二錢  |
| 十 | 金一錢  |

### 國產獎勵

| 品名 | 賞金   |
|----|------|
| 朝日 | 貳拾三仙 |
| 白梅 | 拾五仙  |
| 朝日 | 拾五仙  |
| 白梅 | 拾五仙  |
| 朝日 | 拾五仙  |
| 白梅 | 拾五仙  |
| 朝日 | 拾五仙  |
| 白梅 | 拾五仙  |
| 朝日 | 拾五仙  |
| 白梅 | 拾五仙  |

### 東亞煙公司

特約店 松尾洋行  
電話 北三〇五三番  
山口商店  
電話 北四九五番